



トキの放鳥後、初めて自然下での営巣が確認されました

3月29日現在、佐渡市では放鳥されたトキのうち20羽が確認されており、そのなかで3組のペアが形成され、営巣していることが確認されています。環境省モニタリングが望遠鏡で観察し、枝を1か所に運ぶ様子と、巣の存在、擬交尾を確認しています。

自然下での営巣が確認されたのは2008年の放鳥後初めてのことです。

また、1組のペアで、一日中、オスとメスのどちらかが交代で巣に残って座り込んでいる状況が続いています。このことからトキが産卵をした可能性が高いと考えられていましたが、4月7日、巣に残っていたオスが転卵した際に卵の存在が目視で確認されました。

3月から6月はトキの繁殖期です。繁殖期はトキが最も神経質になる季節です。人が巣に近づくとトキが危険を感じて巣を放棄してしまうこともあり、トキの繁殖が成功することを願って、繁殖期間中はトキの営巣場所付近へは近づかないなど、ご注意とご協力をお願いします。



写真提供 環境省



世界遺産登録に向けて

新たに国指定となった文化財を紹介しします。

国史跡

佐渡金山遺跡

「旧佐渡鉱山の施設群」大立地区 おわたて

平成22年2月に国史跡「佐渡金山遺跡」に追加指定された旧佐渡鉱山施設群の一つである大立地区は、明治2年(1869)の鉱山官営化と共に近代化が進められた場所です。

明治10年(1877)、ドイツ人技師アドルフ・レーの指導のもと、日本初となる深さ約165mの洋式堅坑が完成しました。のちに堅坑は深さ



現在の大立堅坑櫓

306mまで延長され、ケージを巻き上げる動力も、馬から蒸気機関、電動へと変わりますが、平成元年(1987)に鉱山の操業を中止するまでの間、主要な施設として活躍しました。

現存する堅坑の鉄製櫓は、昭和15年(1940)に建設されたもので、岩盤を掘って造られた巻揚室には、複胴巻揚機やコンプレッサーなどの機械が残されており、当時の様子を今に伝えています。

◆市役所世界遺産推進課
☎63-5136



明治34年～末年(1901～1912)頃の大立地区

